

元気いっぱい 友だちいっぱい  
すすんで学ぼう 夢をつくらう



# 美小通信 7

横浜市情報教育ネットワーク(YE ネット)上に本校のホームページがあります。  
URL : <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/utsukushigaoka/>

学校長 松瀬 歩  
青葉区美しが丘2丁目29  
電話(901)3408

## ある音楽の授業で

副校長 小島 多加江

先日、音楽の授業を見に音楽室に入ると、4年生がグループごとに打楽器を演奏していました。タブレットから流れる曲に合わせて、それぞれが思い思いの楽器でリズムを刻んでいます。音楽室前の長机には、音楽の先生が用意したたくさんの楽器がずらりと並んでいます。「なるほど。子どもが自由に楽器に触り、曲に合った音を探すための支援なのだな。」と気付きました。

私は、この子たちの学びの様子をみたくなり、一つのグループに密着することにしました。ウッドブロック2人、クラベス(火の用心で使うような木)1人、マラカス1人の4人のグループです。

タブレットから流れる曲に合わせて、演奏が始まりました。拍に合わせて、4人全員が「タンタンタン」と同じ調子でリズムを打ち、最後にマラカスがシャララと鳴って終了です。

「同じ楽器が2つだとつまらないと思う。最後の音を伸ばすような楽器を使ったらどうかな。」

1人が提案すると、ウッドブロックの児童の1人が、さっとトライアングルに変えました。早速演奏です。

チーン、チーン、チリリリリリ チーン

「いいね、いいね。木の音と金属の音がいい感じ。」

「でも、ウッドブロックとクラベスが同じタンタンタンのリズムだとおもしろくない。私、すずをやってみる。」

すずを叩いて出るシャンシャンという音色と、すずを振って出るシャララララの音を使って、早速演奏です。

タンタンタンチーン、シャラシャラ チーン



様々な音色とそれぞれのリズムが重なって、個性あふれるリズム演奏です。4人のうち3人は満足そうな表情です。すると、少し首をかしげていたウッドブロックの児童が最後に提案しました。

「う〜ん。ウッドブロックがタンタンタンだけでいいのかなあ。そうだ、最後に連続打ちをしてみるね。」

練習時間は残り3分。早速演奏です。

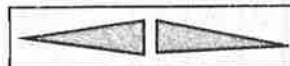
タンタンタン タンタンタン タンタンタン タタタ タタタ タン

なんと、マラカスの児童は、3連符で曲を締めくくったのです。

リズムカード



強弱カード



このグループの子どもたちは、よりよい演奏をめざして、試行錯誤を繰り返し、話し合いを重ね、友達の意見も参考にしながら自分たちの演奏を作り上げていました。まさに、新学習指導要領で育成を目指す「主体的で対話的で深い学び」を実践していたといついでいいでしょう。

この学びは、この時間だけでできたわけではありません。音楽の先生は、見てすぐ分かるリズムカードや強弱カードを何種類も黒板に掲示をして、子どもたちの演奏のヒントとなるよう工夫していました。また、学級担任が普段から話し合いの基礎基本を教え、実践していたことも大きいと感じました。

私が見守っていたグループは、ミニ発表会で見事な演奏を披露しました。その顔には自信がみなぎっているように思いました。このような経験を積み上げながら、子どもたちは成長をしていきます。

学校は後期に入りました。これからも、創造的な学びを実践し、全教職員で美小の子どもたちをしっかりと育てていきます。今後とも、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。